

加工食品の原料原産地表示制度検討会がスタート

消費者庁と農林水産省共同開催で、加工食品の原料原産地表示制度に関する検討会が行われている。一般公開されるとあって、初回の検討会では傍聴席は抽選による聴講となり関心の高さが伺えた。加工食品の原料原産地表示については「消費者基本計画」において「順次実態を踏まえた検討を行う」とし、「食料・農業・農村基本計画」においては「実行可能性を確保しつつ拡大に向けて検討する」と明記。さらに「総合的なTPP関連政策大綱」においても食の安全・安心に関する施策として、「原料原産地表示について、実行可能性を確保しつつ、拡大に向けた検討を行う」としている。加工食品の表示については15年程前から議論が交わされているが、簡単に結論に達することは難しい題目であることは間違いない。食品偽装の問題が話題となっているからか、食品メーカーの意見の中では相談窓口寄せられる問い合わせ内容として、加工食品の原産地を聞かれるケースが非常に増えているとのこと。生鮮食品については名称や原産地等の表示義務化はなされているが、加工食品については現在、22食品群+4品目のみとなっている。平成13年度の8品目スタート時より増加しているものの全ての加工食品に義務化されているわけではない。東京都条例では「調理冷凍食品」については原料原産地の義務付けがなされているが、原材料の重量比の上位3位までのものが対象で重量に占める割合が5%以上のものと限定されている為、消費者は全ての原材料の情報を入手できるまでには至っていない。

各方面から委員が選出されているが、製造者側の意見として産地証明やトレーサビリティが必要となり、そのため生じるコスト高を製品価格に転嫁せざるを得ないが、果たしてそれは消費者に受け入れられるのかといった意見、或は、原材料の調達地が都度変わることから表示の際に都度変更することは現実厳しいといった意見も出され、大企業だけでなく中小合わせた食品加工業界からの意見を集約する必要がある事が挙げられた。また、TPPが発効すると海外からの加工原料が更に入ってくる事が懸念され産地表示により国産と海外の違いをアピール出来、消費者に安心して購買してもらえる、との意見も国内生産者側からあり、立場によりこの表示制度をポジティブに考える意見とネガティブに捉える意見が少しずつ明らかになってきた。

(次ページへ続く)

◆ 現在原材料表示されている加工食品22食品群 ◆

- (1) 乾燥きのこ類、乾燥野菜及び乾燥果実
- (2) 塩・したきのこ類、塩・野菜及び塩・果実
- (3) ゆで、又は蒸したきのこ類、野菜及び豆類並びにあん
- (4) 異種混合したカット野菜、異種混合したカット果実その他野菜、果実及びきのこ類を異種混合したもの
- (5) 緑茶及び緑茶飲料
- (6) もち
- (7) いりさや落花生、いり落花生、あげ落花生及びいり豆類
- (8) 黒糖及び黒糖加工品
- (9) こんにやく
- (10) 調味した食肉
- (11) ゆで、又は蒸した食肉及び食用鳥卵
- (12) 表面をぶった食肉
- (13) フライ種として衣を付けた食肉
- (14) 合挽肉その他異種混合した食肉
- (15) 素干魚介類、塩干魚介類、煮干魚介類及びこんぶ、干のり、焼きとりその他干した海藻類
- (16) 塩・魚介類及び塩・海藻類
- (17) 調味した魚介類及び海藻類
- (18) こんぶ巻
- (19) ゆで、又は蒸した魚介類及び海藻類
- (20) 表面をぶった魚介類
- (21) フライ種として衣をつけた魚介類
- (22) 4又は14に掲げるもののほか、生鮮食品を異種混合したもの

方向性としては加工食品の表示が拡大するように、今年秋までに月1回の検討会を重ね中間報告を委員や監督行政で取り纏めるとのことだ。消費者側の立場、流通業者の立場、メーカー側の立場、農産物の生産者側の立場それぞれ意見の違いがある中で妥協点や着地点を見つけるのは簡単ではないが、消費者がより安心して選択できるよう、一歩進んだ表示制度が整備される事が望まれる。

暖冬影響で春は早い が水不足が心配

3月19日の福岡、名古屋を皮切りにソメイヨシノの開花宣言がなされいよいよ春本番となってきた。東京では靖国神社にある標準木が3月22日に開花宣言となった。現在、東海以東に広がる寒波の影響で花冷えとなっており、東京では3分咲き程度で少し長くお花見ができそうな装いとなっている。沖縄のひかんざくらは石垣島でも平年より27日も遅く、那覇でも平年より3日遅い開花となったのだが、その他のソメイヨシノの開花は高知を除いて全て平年よりも早い開花となっている。東京ではこの冬は3回ほど積雪があったのだが、やはり例年よりも暖冬であったせいかな厳しい寒さを感じた日々は少なく、また、霜が降りる日も少なかったようだ。昨年12月に普段オープン出来るはずのスキー場に雪がなく閑古鳥が鳴いていた姿は記憶に新しい。こういう暖冬な時に懸念されるのが春の水不足だ。東京より北陸・上越・東北の各新幹線に乗車すると高崎や宇都宮を越えたあたりから関東以北の美しい山々には満々と雪をたたえている姿が車窓に飛び込んでくるのだが今年は雪が山に少ないのがよく分かる。関東・東北だけではなく全国でも起こっているのではないだろうか。山に雪がないと田んぼに水が引けない地域が出てくる懸念もある。3月24日現在、東京都水道局のホームページを見ると貯水量は利根川水系では前年比59.5%、荒川水系で前年比72.4%、多摩川水系で前年比77.2%と降雨の関係で変動はあるものの貯水率は低めに推移しているようだ。山間地ではポンプ取水率は低く自然取水の場合が多い。水不足の場合は田んぼに十分水が引けないで田植えを断念する、または水が来なくて植える予定であった苗がダメになってしまったり播種しなおした等の声を聞く。近代では田植えが当たり前となっているが、苗代も出来なく、また田植えの水を十分に確保出来ない地域では直播を行っていた地域もあるという。地名や苗字に「蒔田」という名前が残っている地域はこのような栽培方法で過去栽培されていたようだ。このような苦い経験のある地域におかれては水利組合等の情報を良く聞いて田植え準備をすることをお勧めしたい。

西部菱肥会理事・運営委員会開催

今年の西部菱肥会は、1月7日の賀詞交歓会から始まり、3月2日に理事会・運営委員会合同の役員会を当社大阪支店内会議室にて開催した。主な議題は、本年西部菱肥会主催の全国菱肥会ブロック交流研修会を開催するに当たり、理事・運営委員の皆様からのご意見を頂戴した。ブロック交流会の講演内容は気になる中国情勢や米卸の販売戦略等候補が上がった。開催時期は秋を予定しているが関西ならではの視察場所も検討を重ねて全国の会員メンバーを迎え入れる準備を整えて参りたい。開催日時が決定次第ご案内申し上げますが会員の皆様の奮ってのご参加を御願いたします。



いよいよ東京の桜も開花しました。来週には満開になる予想ですが、この花冷えで膨らんだ蕾も花を咲かせるのを躊躇しているように見えます。桜を愛でながら春を満喫したいですね。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>